

さらにかかる史料を蒐集し、長崎医学伝習に関する諸問題の把握に努めたいが、医学伝習が長崎養生所の設立により、質実共に一層多彩かつ本格化・組織化したことが判然とした。

尚、(1)~(4)については、既発表の拙稿「長崎養生所の設立をめぐる長崎奉行の施策と幕府評議——幕末期改革派官僚岡部長常の洋学導入——」(『青山学院大学文学部紀要』二八号)及び同「長崎医学伝習と関寛斎——『長崎在学日記』を中心に——」(『洋学史研究』二号)の他、稿を改めて論じてみたい。

第26回医学史研究会

日本医史学会関西支部(昭和61年秋季)

合同総会

とき 第一日 昭和六一年一月一日(土) 午後一時

第二日 昭和六一年一月一日(日) 午前九時三〇分

ところ 大阪市北区中之島四丁目 大阪大学医学部 二階会議室

プログラム

〈第一日〉

I 要望課題…戦後の医学・医療(一九四五~一九六〇年)

一、総論……………松田 武(阪大・医)

二、医学教育の戦後史……………中川 米造(阪大・医)

三、戦後の薬事情……………宗田 一(京都市)

四、戦後の大阪北河内地区の病院史(一)……………小松 良夫(寝屋川市小松病院)

五、敗戦直後の日本産業衛生協会の(学会)の再出発……………三浦 豊彦(労働科学研究所)

六、戦後(一九四五~一九六〇年)沖繩の医療……………照屋 寛善(琉球大名誉教授)

七、戦後医療技術の第一次革新……………上林 茂暢(東京柳原病院)

八、朝鮮戦争に召集された日赤看護婦……………看護史研究会

九、国立病院付属看護学校の発足と教育内容について……………遠藤恵美子(東京都立医療技術短大)

一〇、戦後医療史の出発点……………若月俊一先生の場合……………川上 武(東京柳原病院)

一一、近代麻酔学のなりたち……………稲本 晃(京大名誉教授)

II 医学史研究会總會
III 医学史研究会懇親会

【第二日】

I 一般演題

- 一、医の近代—英国の例……………栗本 宗治(西宮市)
- 二、大阪除痘館公館化の意味……………浅井 允晶(堺女子短大)
- 三、E・ペルツとツツガムシ病……………安井 宏(愛知県)
- 四、古代の医療制度……………上坂 良子
— 医疾令を中心に……………昭和医大・鳥山
病院付属看護専
門学校
- 五、中国あん摩史について……………山本 徳子(横浜市大医史学)
- 六、精神医学史の比較研究(2)……………松田 方一(奈良市吉田病院)
— 18世紀イギリスを中心に—
- 七、イタリアルネッサンス期……………杉立 義一(京都市)
における解剖
- 八、新出の『異本病草紙』古模本……………宗田 一(京都市)
- 九、大野藩旧蔵の「エレキテ……………岩治 勇一(大野市)
ル」について
- 一〇、複製「芝蘭堂新元会図」……………寺畑 喜朔(金沢医大)
(金沢大医学部蔵)
- 一一、因伯則考(その一)……………森 納(鳥取県)
- 一二、臨床教育が開始されて……………石田 純郎(三菱水島病院)
三五〇周年—ライイデン
・シンポジウム(一九
八六、八)より
- 一三、日本医療団 殊に愛知……………佐久間温巳(西尾市民病院)
県におけるその活動に
ついて

一四、J.P. Sabinich & L.A. ……飯淵 康雄(琉球大学医学部)
Orielet の学問的かつ
がりについての批判的
研究—生命表を軸にし
て—

一五、一六八六年の医学—ルイ……………大村 敏郎(慶応大医史学)
—一四世の痔瘻手術をめ
ぐって—

一六、抜歯に用いる学について……………杉本 茂春(大阪市)
一七、中村舜の作品から……………小松 良夫(寝屋川市)
—「血を吐く男」など—

日本医史学会広島支部総会ならびに研究発表会

日時 昭和六十二年二月二十五日(水) 午後六時四十五分
場所 広島医師会館 三階 健康教育室

一 日本医史学会広島支部総会
二 研究発表

- 1 東広島市出身の医哲について……………江川 義雄
- 2 私の見た東西文明における
医療の進歩とその矛盾の一端……………小川 新
- 3 広島山口にわたる曲直瀬道三の
門弟と富樫文周について……………末田 尚
日本医史学会広島支部長……………西本 幸男